

= 第5節 海と陸との連続性・護岸 =

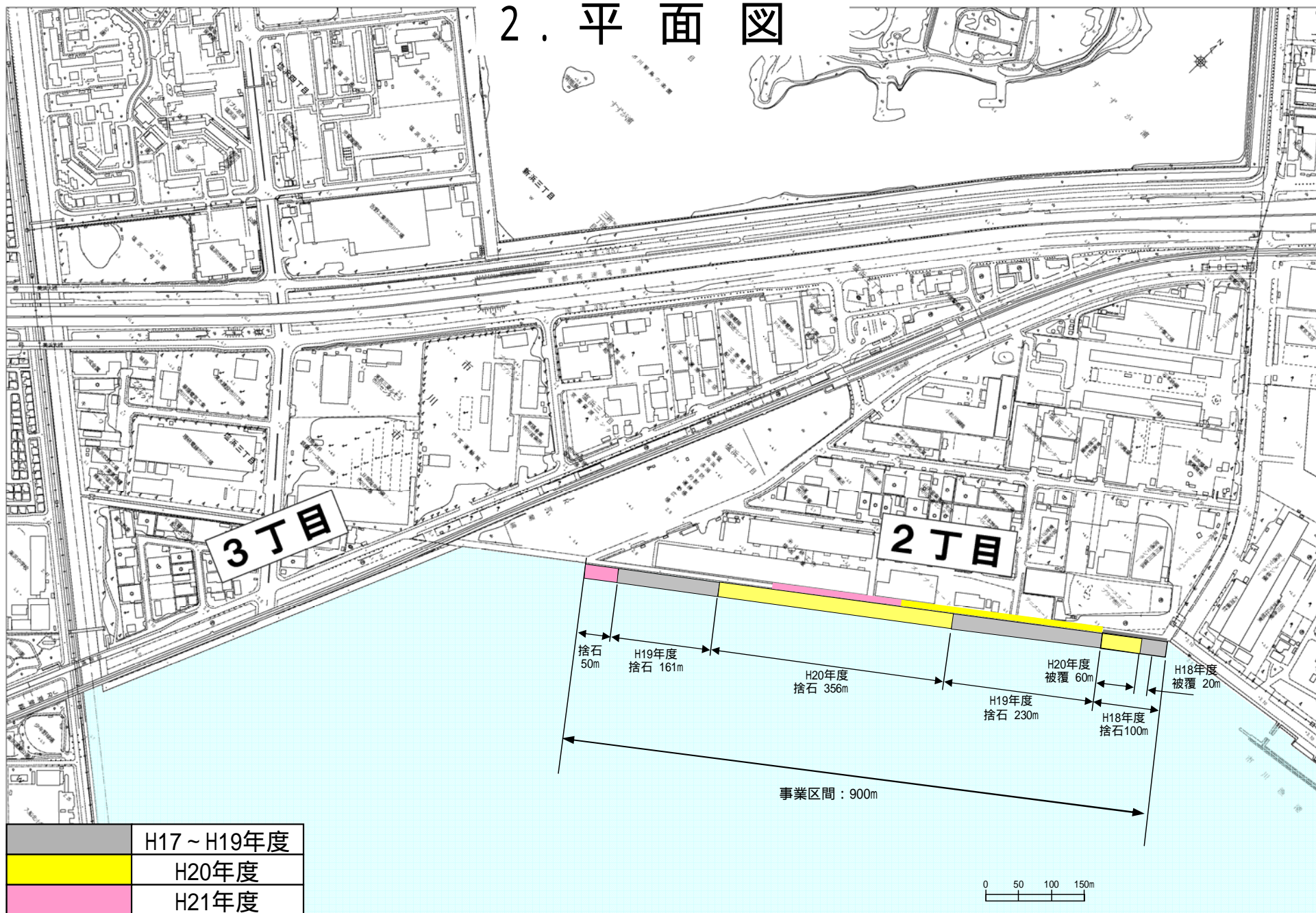
参考資料目次

1. 位置図	1
2. 平面図	2
3. 工事の計画	
(1) 護岸配置計画図	3
(2) 断面図	4
4. 砂つけ試験の計画	
(1) 目的	6
(2) 平面計画図・断面計画図	7
5. モニタリング調査計画	
(1) モニタリング調査項目	8
(2) モニタリング調査位置	9
6. 実施工程表	10
7. 塩浜2丁目の護岸改修の流れ	11

1. 位置図



2. 平面図



3. 工事の計画

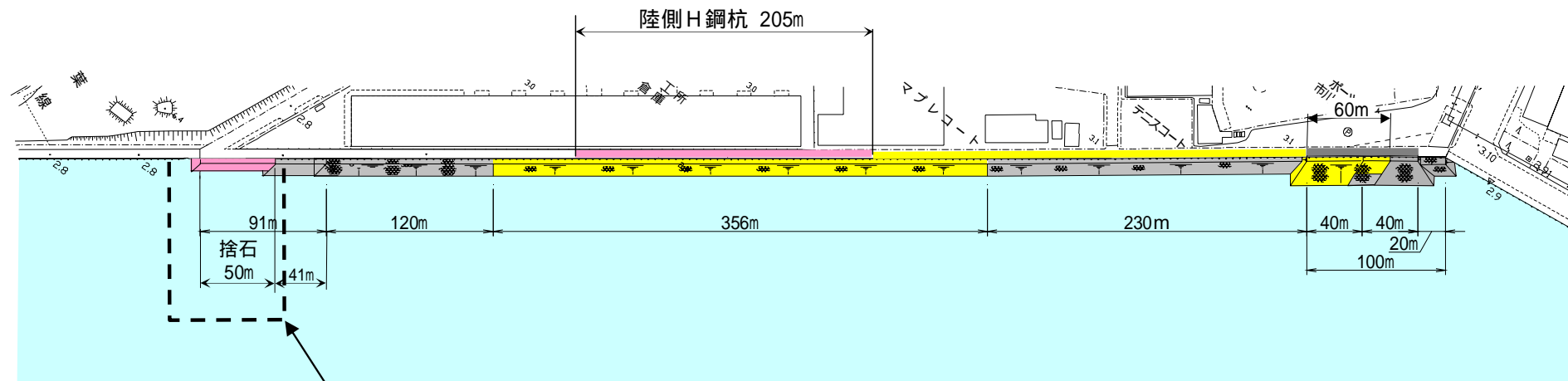
(1) 護岸配置計画図

緊急対策の未着手部分に捨石(+3.5m)を50m施工して護岸の倒壊防止となる緊急対策を完了する。

また、H20年度に引き続き、陸側のH鋼杭の工事を205m施工する。

H21年度工事進捗量：緊急対策の捨石50m

陸側H鋼杭 205m

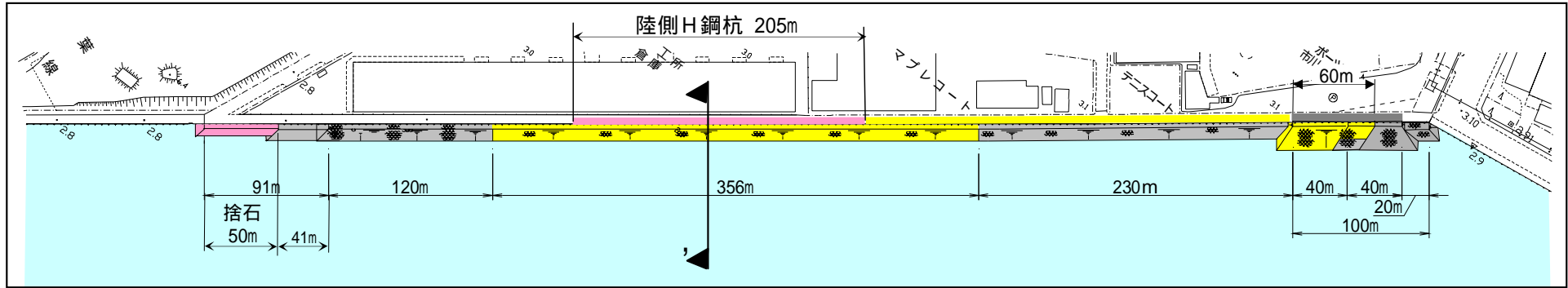


汚濁防止膜

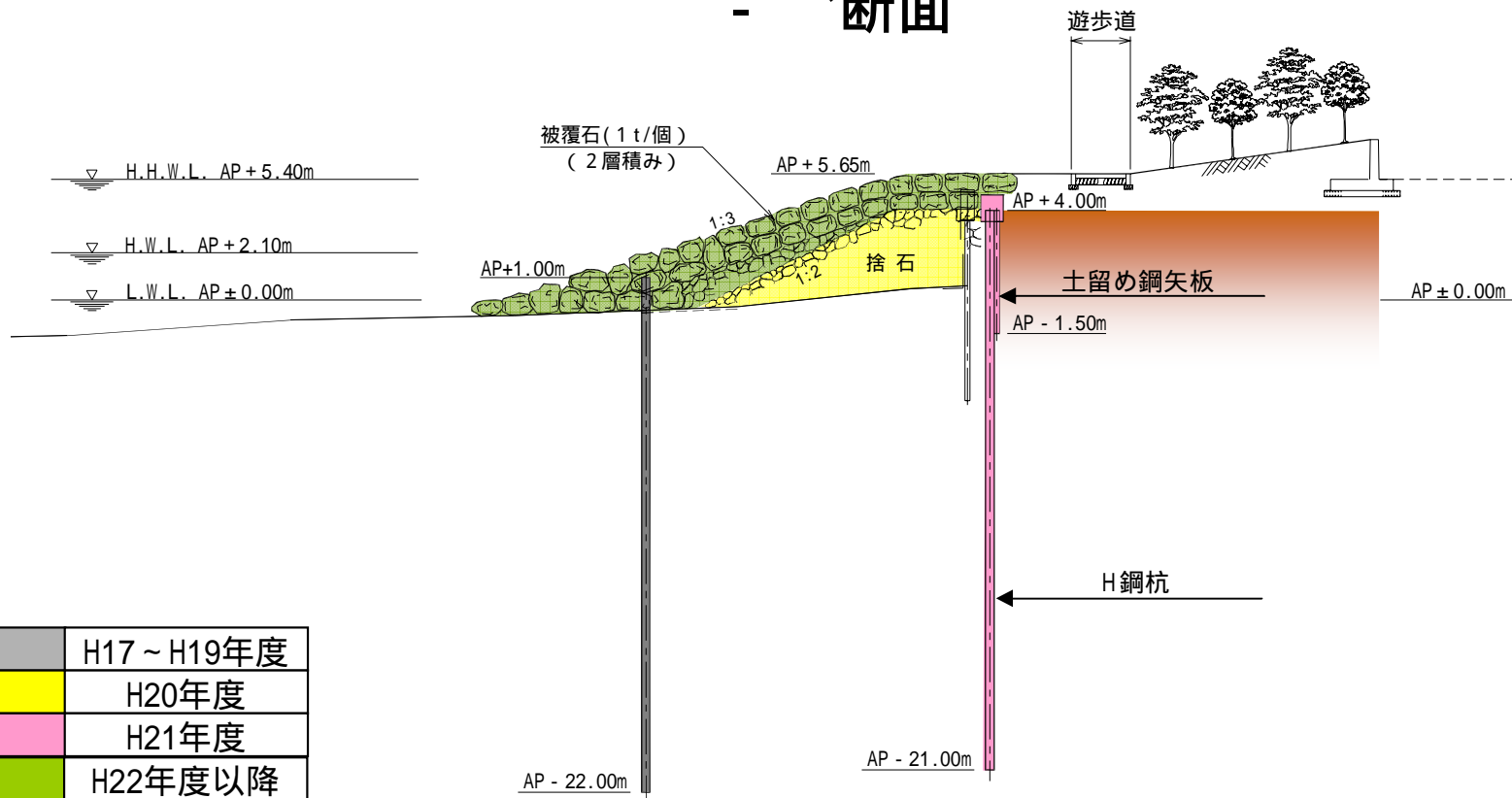
	H17～H19年度
	H20年度
	H21年度

3. 工事の計画

(2) 断面図: - ' 断面



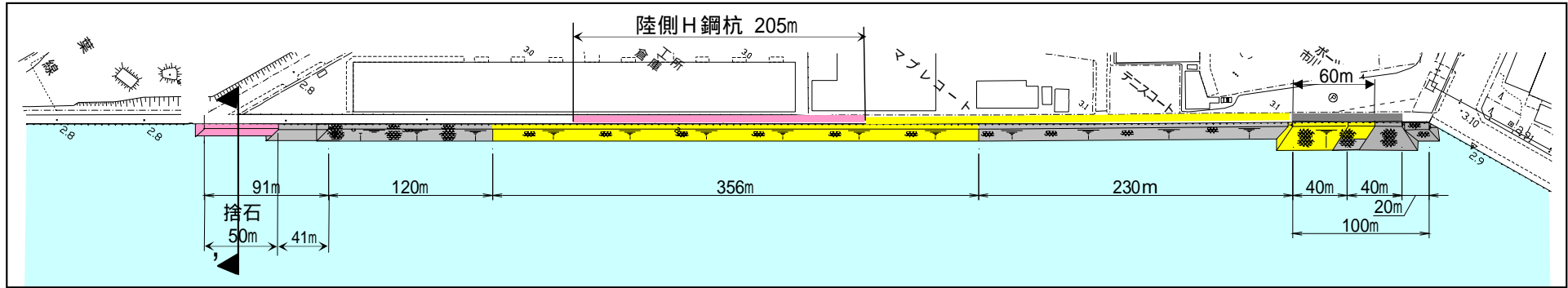
- ' 断面



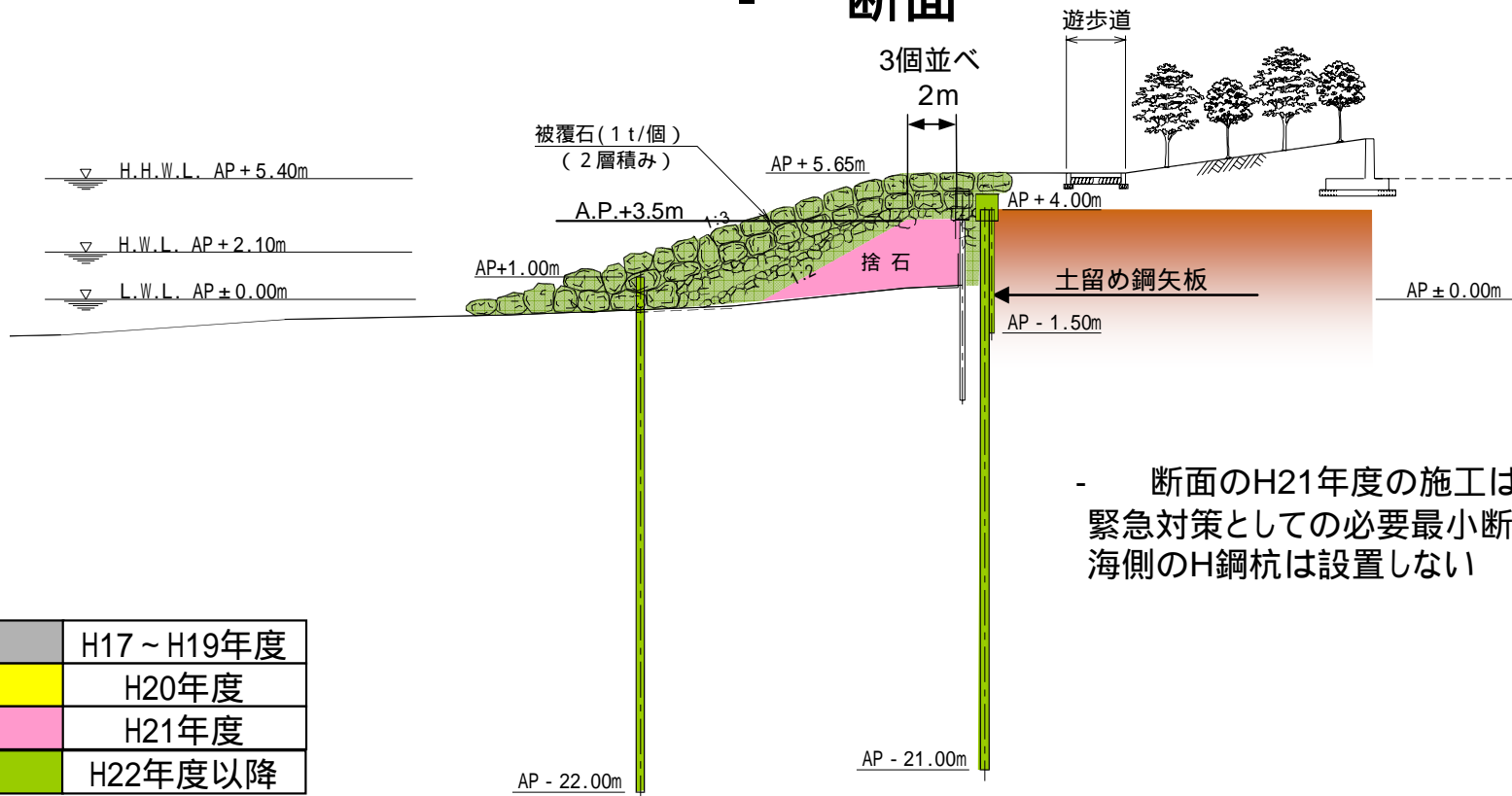
	H17 ~ H19年度
	H20年度
	H21年度
	H22年度以降

3. 工事の計画

(2) 断面図: - ' 断面



- ' 断面



- 断面のH21年度の施工は以下のとおり
緊急対策としての必要最小断面
海側のH鋼杭は設置しない

	H17 ~ H19年度
	H20年度
	H21年度
	H22年度以降

4. 砂つけ試験の計画

(1) 目的

1丁目隅角部の静穏域を利用して、砂を投入した場合の砂の挙動とそこに構成される生物相を確認し、今後の護岸バリエーションの検討材料とする。



試験場所の状況

投入場所

確認項目

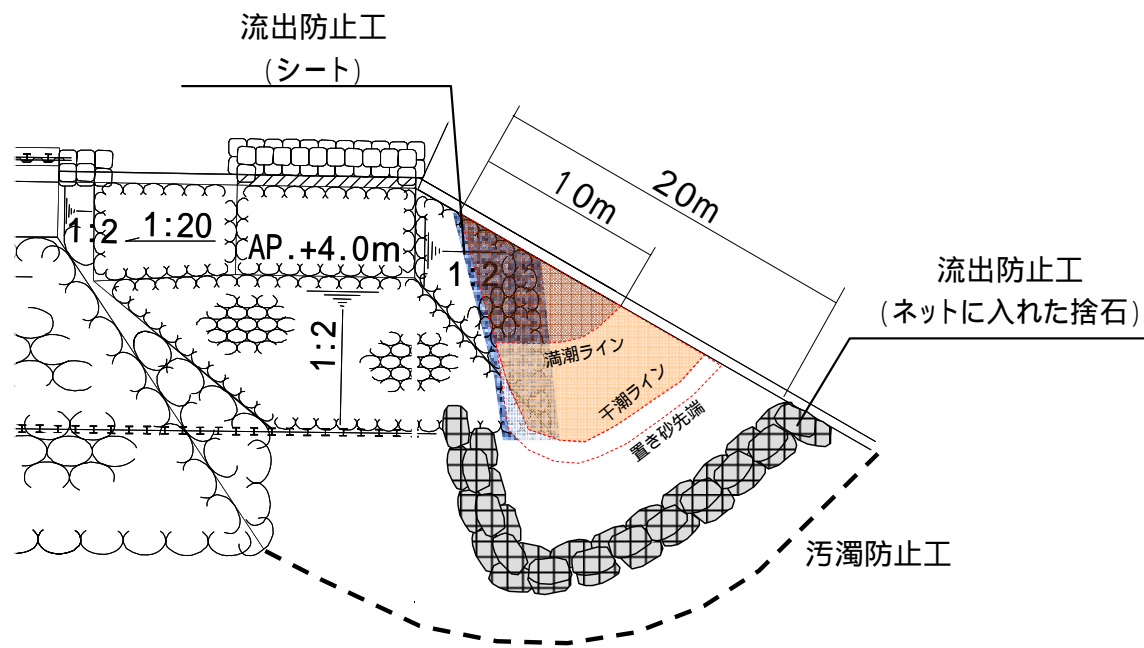
砂の挙動

- ・測量的な手法によって変状を確認する。

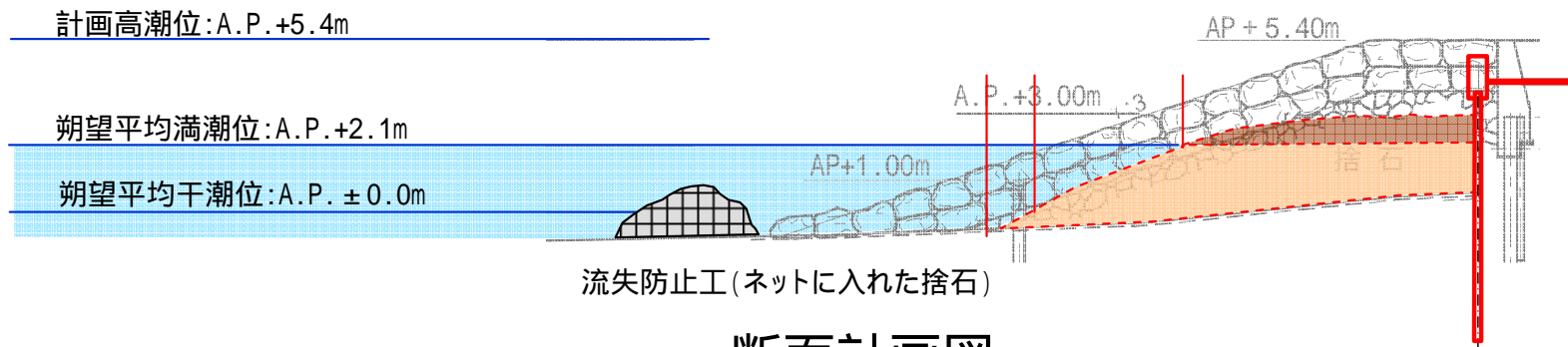
生物相

- ・生物調査を行って、どのような生物が確認されたかを整理する。

(2) 平面計画図、断面計画図



平面計画図



断面計画図

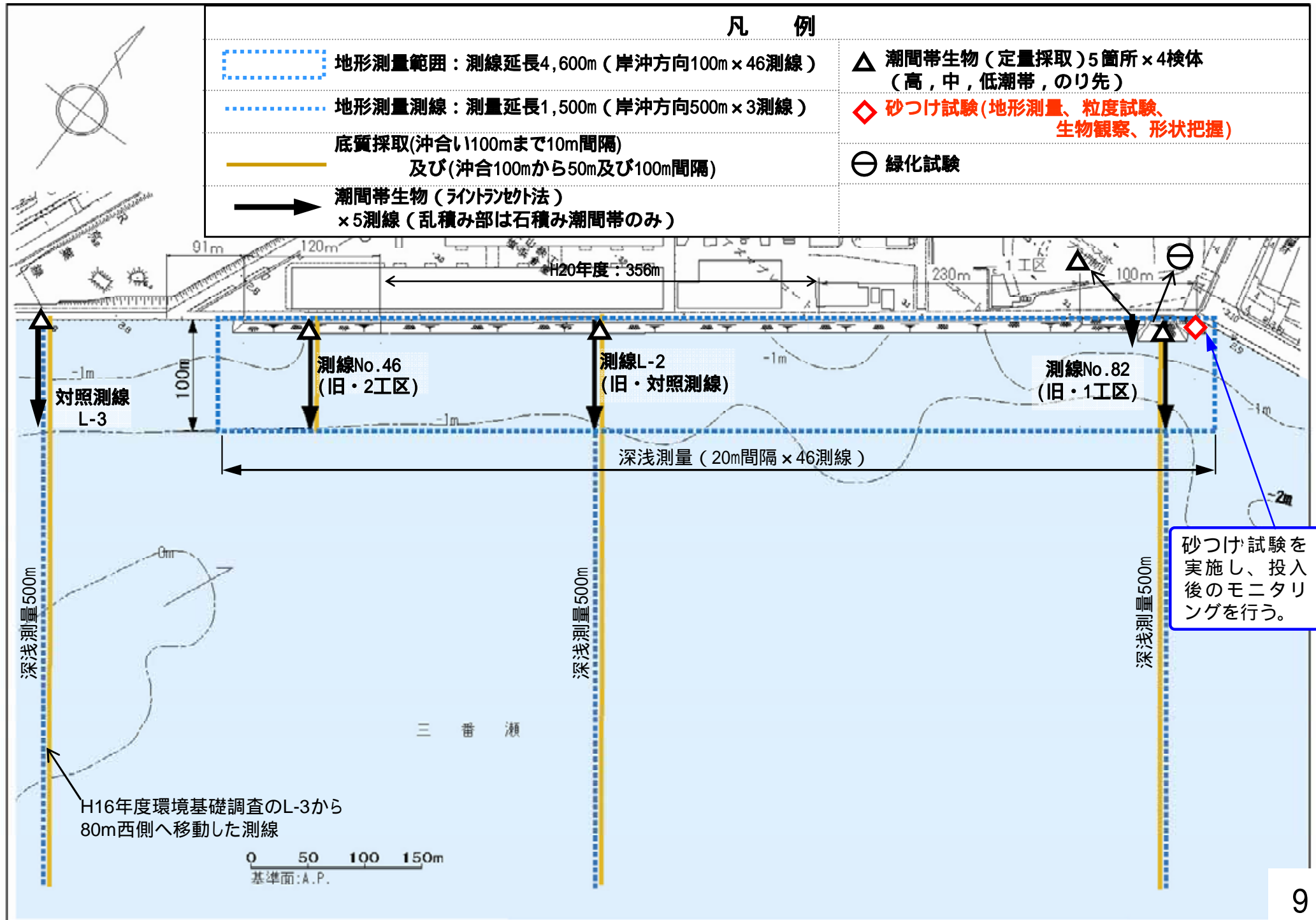
5. モニタリング調査計画

(1) モニタリング調査項目

赤文字部分がH20年度からの変更内容である。

区分	項目	目的	方法	時期(間隔)	数量等
検証項目	地形	・護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握 ・洗掘等による周辺地形の変化の把握等	地形測量	春季：4月 秋季：9月の年2回 東側端部脇は年2回+イベント(台風等の高波)後	・護岸改修範囲の岸沖方向100m × (43測線) = 測線延長4,600m ・測線No.82、L-2、対照測線L-3の岸沖方向500m × (3測線) = 測線延長1,500m ・石積護岸の東側端部脇の4地点
	底質	粒径の変化の把握	採泥・粒度試験	春季：4月 秋季：9月の年2回	・測線No.82、L-2、No.46、対照測線L-3の岸沖方向100mの4測線で10m間隔で採泥(10検体)：合計40検体 ・測線No.82、L-2、対照測線L-3の岸沖方向500mの3測線では、沖合150m, 200m, 300m, 400m, 500mの5地点で採泥：合計15検体
	生物	潮間帯生物の定着状況調査は公開とし、ライントランセクト法による観察は市民との協働で行うものとする。	ライントランセクト法による観察	春季：4月 夏季：8月下旬～9月の年2回 冬季：1月 潮間帯の写真撮影のみ(ただし、夏季に護岸前面に青潮が広がった場合は、冬季調査を実施する。)	・測線No.82、H19年度乱積施工箇所、L-2、No.46、L-3の5測線 ・石積護岸(斜面上)：方形枠(50cm × 50cm)による連続目視観察 ・高潮帯から護岸のり先まで1m間隔 ・旧護岸法線より30～100mは10m間隔 ・石積護岸の東側端部の1地点においても観察 ・H19年度乱積施工箇所は潮間帯のみ観察
			採取分析		・測線No.82、H19年度乱積施工箇所、L-2、No.46、L-3の5箇所における採取分析 ・1箇所当り高、中、低潮帯、のり先の4検体
	緑化試験	・護岸構造を利用した基盤の形成方法を見出す。 ・石積護岸の立地環境に合う植物を確認する。 ・立地環境に合った緑化手法を見出す。	発芽及び移植試験ヤードにおける種まき、植え込み後の観察	平成21年4月～平成22年3月	・発芽ヤードでは、発芽状況と種類、活着状況、他の植物の侵入状況、基盤の保持状況、天候を観察 ・移植ヤードでは、活着状況、他の植物の侵入状況、基盤の保持状況、天候を観察 ・観察頻度は4～9月は2週間に1回、10～3月は1ヶ月に1回
	砂つけ試験	・砂を投入した場合の砂の挙動を把握する。 ・置き砂に現れる生物相を確認する。	地形測量	年2回+イベント(台風等の高波後)	・置き砂投入範囲の中で1測線
			採泥・粒度試験	秋季：9月、 春季：4月(H22)の年2回	・後浜部、汀線部、のり先付近を基本として、勾配が変化することに1箇所。
			生物観察	夏季：8月下旬～9月 春季：4月(H22)の年2回	・方形枠(50cm × 50cm)による目視観察 ・潮間帯で1箇所
形状把握			年2回+イベント(台風等の高波後)	・定点撮影	
水鳥	水鳥の場の利用への影響の有無を把握する。	専門家へのヒアリング	年1回	・専門家へのヒアリング1回	
材料証	波浪・流況	2丁目護岸周辺の海底地形、底質に大きな変化が見られた場合は、東京湾内にある波浪観測点から外力を推定する。			
	青潮時の溶存酸素量測定。生物環境への外力把握を目的とする。	DO計による測定	青潮発生時	・第1工区の完成断面石積のり先。 ・護岸改修範囲の西側で1地点	

5 (2) モニタリング調査位置



7. 塩浜2丁目の護岸改修の流れ

= 順応的管理を踏まえた改修の流れ =

